

第7回

布育のすすめ ～簡単布おもちゃ作り「ねこちゃんになれるセット」～



講師 さとう ゆきこ 氏

1 ちゃんと遊べば ちゃんと育つ

子どもは遊びの中で学びます。適切なおもちゃがあると、「遊んでみたい。」「やってみたい。」「これは何だろう。どうやってやるのかな。」「自分でもできるかな。」と子どもの心は動きます。そして、実際に手を使ったり体を使ったり、友達と一緒にやったりすることで、「できた。」「嬉しい、またやりたい。」と感じます。良いおもちゃがあると、心が動き、体が動いて、周りの人も動いて関わりが生まれ、その中で身体能力・認知・知識・言葉・ルール・創作・知的好奇心・コミュニケーション等の様々な力がついてきます。

2 ごっこ遊びについて

布おもちゃには、2つの側面があります。一つは手指、身体を育む側面です。布おもちゃやボタン等は、手先や身体を使うという役割があります。もう一つは、心を育むという側面があります。これは、情緒の安定につながったり、心を安らかにしたりすることです。

ごっこ遊びは、想像力やコミュニケーション力等いろいろな力を総合的に育む、とても大事な遊びです。手作りのおもちゃがあると一人一人のイメージが広がり、そのイメージを共有して遊びを助けることができます。ぜひ、布おもちゃや手作りおもちゃを取り入れて、乳幼児期にしか味わえない豊かな時間を保障してもらいたいのです。

今日はねこちゃんの耳を作りますが、どのような遊び方があり、どのような場面で使えるか

を考えながら作っていきたいと思います。

3 ねこちゃんの耳 材料

- ・フリース生地【白】
耳用 (9cm×20cm) 1枚
- ・綿生地【ピンク】
耳用 (9cm×20cm) 1枚
- 【茶】
ベルト用 (7cm×70cm) 1枚
- ・マジックテープ 1組
- ・ゴム紐 (45cm) 1本
- ・刺しゅう糸【白・茶】二本取り

ピンクの綿生地の布には、耳の形の線が、2つ書いてあります。ふわふわの感触の白いフリース生地を耳の裏にして、2枚一緒に縫っていきます。

茶色い綿生地の布は、長いベルト状になっており、頭に巻く形になります。事前に、中表に二つ折にして端を縫い、裏返しにしておくとう作業がスムーズです。

ゴム紐で、子どもの頭に巻く形になります。頭から抜け落ちない長さ、幅広のものを用意しました。

4 ねこちゃんの耳 作り方

- ① 耳用の白いフリース生地とピンク綿生地を中表に重ねる。耳の下辺をそろえる。
最初に、白のフリースの生地の上に、ピンク綿生地を重ねます。2枚の下辺がピタッと

重なるように置き、耳の横の寸法が足りなくならないようにします。

- ② まち針を打ち、2つの耳を切り離す。

2枚を重ね合わせた状態で、耳が動かなくなるように待ち針で留めます。フリース生地は、ちょっと厚みもあってふわふわしており、少し伸び縮みします。待ち針を使わないとずれるのでしっかりと留めたあと、2つの耳を切り離します。

- ③ 線の上を縫う。

ピンク綿生地の、耳の形の線の上を白い糸で縫っていきます。刺繍糸を使うときに、細い糸が6本束になって入っているので、ここから1本だけ持って上に向けて抜くと絡まらずに取ることができます。

使用する針は、あまり太い針だとフリースを通すのが硬くて大変なので、少し細めの針を使用するといいでしょう。

縫い方は二本取りで、なみ縫いでもいいですし、丁寧に作りたい方は、返し縫いでもいいです。なみ縫いの場合は、目が粗いと完成した時に、縫い目の間から子どもが指を入れたりするので、子どもの指が入らないぐらいになるべく細かく縫った方がいいです。

- ④ 縫った線の外側1cmのところ、余分な布を切り落とす。

2つの耳が縫えたら、縫った線の外側1cmのところ、布を切り落とします。耳の形に切れたら裏返すのですが、耳の角が、きれいに仕上がるコツがあります。裏返す前に、縫いしろのねこの耳の尖った部分を少し切り落とします。すると、耳の先端がすっきりします。

もう一か所、縫いしろの耳の底辺の角部分

を斜めに切り込みを入れると、裏返した時に耳の底辺の角もすっきりします。

- ⑤ ④を裏返す。2組同じように作る。

縫いしろの処理をしたら、裏返します。ピンセットや細いペンなどを使って外に押し出して、少し手で押さえてあげると綺麗な形になります。

- ⑥ ベルト用生地を細長く二つ折にする。耳を挟む位置を空けて、筒状に縫う。

70cmのベルト用生地を細長く中表にして半分に折ります。筒状になるように、端を縫っていきませんが、中央あたりに耳を挟む位置を2か所空けて縫います。

端から直線で24cm縫ったら、片耳8cm分を空け、再び耳と耳の間を6cm縫います。もう片方の耳の分を8cmを空け、残り24cm反対の端まで直線で縫います。

- ⑦ ⑥を裏返す。

細長い棒状のものを使って、ベルト用生地を裏返していきます。

- ⑧ ベルト用生地の耳部分に、耳を1cm差し込み、グルッと縫い留める。

2ヶ所空いている部分に、耳の表裏（白とピンクの生地）を間違えないようにして、1cm位差し込み、待ち針で留めます。どのような縫い方でもいいので、ベルトと耳の下辺を一周縫っていきます。茶色、白、ピンクの4枚の生地を一気に縫おうとすると、固くて大変なので、耳の表（ピンク）とベルト（茶色）、耳の裏（白）とベルト（茶色）のそれぞれの生地を縫っていくようにします。糸は白か茶色を使用します。

待ち針を打つときに、針先を長く出すと自分

の手や服に引っ掛かりやすいので、布から少しだけ出るようにして打つと引っ掛からないようにするのがコツです。

⑨ ベルトの両端を1cm内側に折り込む。

指でベルトの両端を1cm位内側に折り込んで、爪で折り目を付けてください。反対側も同じように行います。

⑩ ゴム紐をベルトの筒に通す。

ゴム紐をベルトの中に通していきます。ゴム紐の片側に、安全ピンや紐通しをつけておきます。反対の端は、待ち針をTの字に打っておきます。ゴム紐をベルト筒の中に通している途中で、ゴム紐が抜けおちてしまうことを防ぎます。ベルトよりゴム紐の方が短いので、全部通すとベルトの布にはしわが寄ってきます。

⑪ ゴム紐の両端をベルトの両端にはさんで縫い留める。

ゴムが全部通ったら、端を合わせてゴム紐とベルトを一緒に待ち針で留めます。先につけた安全ピンや紐通しを外します。反対側も待ち針で留め、ゴム紐とベルトを一緒に縫います。分厚いのでグサッと針をさしてひっぱるというやり方で縫ってください。子どもが遊んでいる途中で、ゴムが抜けてしまうことが心配なようでしたら、抜けないように2列で縫います。

⑫ ベルトの両端にマジックテープを縫い付ける。

このベルトは、ヘアバンドのように子どもが頭にかぶる形です。万が一首にかかっても外れるように、ゴム紐とマジックテープで作ります。工程は増えますが、引っ張ればマジックテープが剥がれるのでより安全です。

マジックテープは固いので、子どもの肌に当たると痛いです。子どもが身に付ける物に使う場合は、角を切り落とし、当たらないようにするといいです。つける時は、テープ同士の接着面を考えて付けます。

糸は二本取りで、マジックテープが硬いので、ゆっくり針をさして縫ってください。ミシンの場合は、スピードを出して縫うと、針が折れたり絡まったりする原因になるのでゆっくり縫います。これで耳の完成です。

5 ねこちゃんのしっぽ 材料

- ・フリース生地【白】 しっぽ用 2枚
- ・型紙（しっぽの形）
- ・手芸用の綿
- ・紐（ベルト用の布）

布の下辺に合わせて型紙を置き、しっぽの線を引きます。線を縫ってから、縫いしろ1cmのところを布を裁ちます。布を裏返していきます。しっぽは細長いので、ペンや割りばし等で押したり、ピンセットでひっぱったりして形を整えます。

次に綿を詰めていきますが、長い菜箸や細い定規等でゆっくりと先端まで綿を送ってください。綿を入れ終わったしっぽは、ベルトや紐をつけて、子どものお腹に巻き付けられるようにして完成です。

しっぽは、形や長さ、大きさを変えれば、いろいろな動物のしっぽにアレンジできます。うさぎは、丸い布の周りをなみ縫いで縫って糸を引っ張り、その中に綿を入れて作ります。

6 ねこちゃんの耳の遊び方

ねこ以外にもいろいろな動物にアレンジできるので、お面のように使うことができます。七

ひきの子やぎや、三匹のこぶた等のごっこ遊びも楽しそうです。ルールのある遊びとしては、フルーツバスケットの要領でいろいろな動物をみんなで被り、動物バスケットをすることもできます。また、灰色や茶色でおおかみを作って、おおかみ鬼ごっこ等をする、小さい子でも視覚的に鬼が誰なのかわかりやすく、わからなくなってしまうことはありません。また、普段のごっこ遊びやままごとで身に付け、自由に見立てて遊ぶ姿が見られます。

その他、朝登園してきてすぐにねこの耳を被ったり、布を腰に巻いたりすることで、機嫌がよく一日を過ごすという姿もよく見られます。身にまとうおもちゃは、遊ぶ目的だけでなく、身につけて嬉しい気持ちになったり、安定したりする効果もあります。

7 ごっこ遊びを助ける布おもちゃ

100円ショップ等ののれんやカフェカーテンを使って、棒を通す筒状のところにゴムを通し、丈を調節すると簡単にマントやスカートができます。

その他、身に付けるものとして、変身ベルト、リストバンド、バッグ、ドレス、ヴェール、シュシュ、エプロン等、なりきりグッズはごっこ遊びを助けます。

8 今こそごっこ遊び！

ごっこ遊びは、想像力、コミュニケーションの力、表現力等、いろいろな力を総合的に育てます。布おもちゃがあるとイメージが広がり、ますます遊びが豊かになります。ぜひ、時間や場所を保障していき、遊ぶ環境を充実させてあげたいです。おもちゃは好奇心・アイデアを呼び起こします。今回作ったような、新しいおもちゃが子どもの手が届くことで、遊びの発想

や、遊びの豊かさに繋がります。

9 さいごに

手作りおもちゃは、きれいに作ることも、子どもがそのおもちゃと関わったり、おもちゃを介して人と関わったりする役割があるということを大切にしながら作るとよいです。子どもが実際に、どのように遊んでいるかを観察したり、保育者同士で表れを伝えあったりしながら、遊びを深めていきましょう。

布おもちゃを取り入れることで、想像力がはたらくような環境を整え、乳幼児期にしかできないごっこ遊びを保育者が守ってあげてほしいと思います。



ねこちゃんの耳

第7回 焼津市保育者資質向上研修会（抜粋）
令和5年12月15日（金）
焼津市役所大会議室1B・オンライン（各園）